高度先進睡眠時無呼吸障害学実習（有坂博史）

Training of Highly Advanced Sleep Apnea Ayndrome （Hirofumi Arisaka）

キーワード

① 高度先進口腔医学講座
② 睡眠時無呼吸障害
③ 義歯と睡眠時無呼吸
④ 矯正治療と睡眠時無呼吸
⑤ 口腔内装置と睡眠時無呼吸

授業概要

閉塞性睡眠時無呼吸症候群の外来実習を通して、PSG（ポリソムノグラフィー：Polysomnography）検査の結果の読み方を学び、睡眠状態、呼吸状態などの基本的なデータ解析の知識を深める。そして、正しい検査結果の理解を基礎に、CPAP治療（シーパップ：Continuous Positive Airway Pressure）の原理を習得し、さらに歯科医師に期待されている口腔内装置、矯正治療法を学び、医科歯科連携の治療法の実際を習得する実習を通じて、睡眠時無呼吸障害学の臨床研究手法を身につけることを目的として開講する。

授業科目の学修目標

閉塞性睡眠時無呼吸は、心筋梗塞、脳梗塞など生命を直接脅かす疾患と関連しているが、その病態生理は、複雑な要因が絡んで未だに解明されていない。睡眠時無呼吸症候群における、歯科側からの研究課題を立案し、実践する能力を修得することを目標とする。

授業計画

① 睡眠時無呼吸症候群の研究計画の立案自習　20コマ
実習を通じて、歯科側からの睡眠時無呼吸に対しての研究課題の立案の基本を教授する。
② 義歯が睡眠時無呼吸に与える影響　10コマ
顎位の変化と修復による睡眠時無呼吸に対する影響についての研究法を教授する。
③ 矯正治療による睡眠時無呼吸の治療　20コマ
矯正治療による睡眠時無呼吸の治療、舌運動トレーニングによる睡眠時無呼吸の治療に関する研究法を探る。
④ 口腔内装置による睡眠時無呼吸の治療　10コマ
新しい口腔内装置の研究計画の立案の基礎を教授する。

実習担当教員　有坂博史　杉田武士　田口長

教科書および参考書

歯科医師の歯科医師による歯科医師のための睡眠時無呼吸症候群の口腔内装置治療、医歯薬出版
奥野健太郎著
睡眠呼吸障害Update〈2011〉ライフサイエンス　井上 雄一　山城 義広（著）

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

特別な予備知識などは必要ありません。

大学院生が達成すべき行動目標

① 睡眠時無呼吸症の病態を理解し研究計画の立案ができる。
② 顎位変化による睡眠時無呼吸の変化を理解し解析できる。
③ 矯正治療、舌運動トレーニングによる睡眠時無呼吸症候群の変化を理解し解析できる。
④ 口腔内装置の理論を理解し実践できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
0%	0%	0%	0%	0%	90%	0%	10%

評価の要点

・口頭試問は、授業終了後毎回行い知識の理解度を判定する。　1.5％×60回=90％
・その他　学会発表を行う。　10％×1回=10％

理想的な達成レベルの目安

高度先進睡眠時無呼吸障害学実習の理想的な達成レベルは80％以上とする。